

新品種候補(2016年1月作成)

育種事業課題名：水稲新品種候補「空育181号」の概要(211161、621171、721161、721271)
 担当部署：中央農試・生産研究部・水田農業グループ
 道南農試・研究部・地域技術グループ

キーワード：飼料用米、多収、耐冷性、耐病性、耐倒伏性

1. 特性一覧表

系統名：「空育181号」 組合せ：空育酒170号(彗星)/北海302号(ゆきさやか)

- 特性：長所
1. 移植、直播栽培とも多収である。
 2. 穂ばらみ期耐冷性が強い。
 3. いもち病抵抗性が強い。
 4. 耐倒伏性が強い。
- 短所
- なし

普及見込面積： 5,050ha

栽培方法	移植				直播					
	育成地(中央農試)		普及見込み地帯 ¹⁾		育成地(中央農試)		普及見込み地帯 ²⁾			
調査地										
調査年次	平成23～27年(標肥)									
系統・品種名	空育181号	標準品種 ななつぼし	空育181号	標準品種 ななつぼし	空育181号	標準品種 ほしまる	比較品種 大地の星	空育181号	標準品種 ほしまる	比較品種 大地の星
出穂期の早晩性	早生の晩	中生の早	—	—	早生の晩	早生の早	早生の中	—	—	—
成熟期の早晩性	中生の早	中生の中	—	—	中生の早	早生の晩	中生の早	—	—	—
草型	偏穂数	偏穂数	—	—	偏穂数	穂数	偏穂数	—	—	—
苗立歩合(%)	—	—	—	—	65.0	73.6	70.6	61.8	64.2	62.5
出穂期(月・日)	7.27	7.28	7.24	7.27	8.07	8.04	8.05	8.04	8.02	8.03
成熟期(月・日)	9.19	9.18	9.09	9.12	9.28	9.24	9.26	9.23	9.19	9.21
登熟日数(日)	54	52	47	47	52	51	52	50	48	49
初期生育(本/㎡)	321	287	393	398	959	1061	953	803	870	811
稈長(cm)	66	72	67	74	72	71	77	69	68	74
穂長(cm)	16.1	16.8	16.3	16.8	14.9	15.9	15.1	15.0	15.6	14.9
穂数(本/㎡)	684	730	592	624	802	903	831	728	776	738
一穂粒数	51.5	51.4	58.7	56.2	51.4	38.7	47.2	49.9	38.5	45.5
㎡当たり粒数(×1000)	35.2	37.5	34.3	34.8	41.2	34.9	39.2	36.7	30.1	33.9
割粒歩合(%)	12.7	26.0	9.8	19.2	5.5	6.3	4.5	11.2	11.2	10.5
芒の多少・長短	稀・短	少・短	—	—	稀・短	極稀・極短	稀・短	—	—	—
ふ先色	黄白	黄白	—	—	黄白	黄白	黄白	—	—	—
脱粒性	難	難	—	—	難	難	難	—	—	—
耐倒伏性	やや強	やや弱	—	—	やや強	中～やや強	中～やや強	—	—	—
穂ばらみ期耐冷性	極強	強	—	—	極強	強	極強	—	—	—
開花期耐冷性	やや強	強	—	—	やや強	強	強	—	—	—
いもち病抵抗性	遺伝子型	<i>Pia, Pik</i>	<i>Pia, Pii</i>	—	—	<i>Pia, Pik</i>	<i>Pia, Pii</i>	<i>Pia, Pii, Pik</i>	—	—
	葉いもち	強	やや弱	—	—	強	やや弱	強	—	—
	穂いもち	やや強	やや弱	—	—	やや強	中	やや強	—	—
粗玄米重(kg/a)	71.3	67.0	71.0	65.0	73.0	63.6	65.3	69.3	58.4	61.8
粗玄米重標準比(%)	106	100	109	100	115	100	103	119	100	106
精玄米重(kg/a)	67.1	61.6	68.2	61.1	67.5	58.2	60.6	66.1	55.1	58.9
精玄米重標準比(%)	109	100	112	100	116	100	104	120	100	107
玄米千粒重(g)	25.3	22.5	25.1	22.2	25.1	24.1	24.4	25.5	24.7	25.2
玄米等級	2中	2上	2上	1下	2上	2上	2中	2上	2上	2上
玄米品質 ³⁾	3.9	3.2	—	—	3.4	3.3	3.6	—	—	—

注1) 農試、現地のべ85カ所の平均、ただし初期生育は80カ所。注2) 農試、現地のべ27カ所の平均、ただし初期生育は18カ所、割粒歩合は25カ所。注3) 玄米品質は9ランクで計算。数値は上下：3、中上：4とした平均。

2. 特記すべき特徴

「空育181号」の出穂期は“早生の晩”であり、移植・直播栽培ともに収量性が高く、穂ばらみ期耐冷性・いもち病抵抗性・耐倒伏性に優れる。

3. 優良品種に採用しようとする理由

北海道における水稲作付面積は、生産数量目標の配分に伴い減少傾向にある。また、人口の減少から主食用米の作付も減少が予想されている。平成30年以降、米の生産調整の手法が見直されることから、減少傾向を抑えるには北海道米の安定供給や幅広いニーズへの対応とともに生産者の経営安定につながる需給体制を確立する必要がある。このような情勢の中で、農林水産省の食料・農業・農村基本計画（平成27年）及びJAグループ北海道の北海道水田農業ビジョン（平成26年）において、今後、飼料用米についての生産努力目標や安定的な取り組みを構築することが示されている。飼料用米生産の推進はこれまで海外からの輸入穀物に依存してきた配合飼料原料の国内自給率向上も期待できることから、国が様々な政策支援を進めており、国からの交付金として最大で10.5万円/10aの数量払いが導入された。

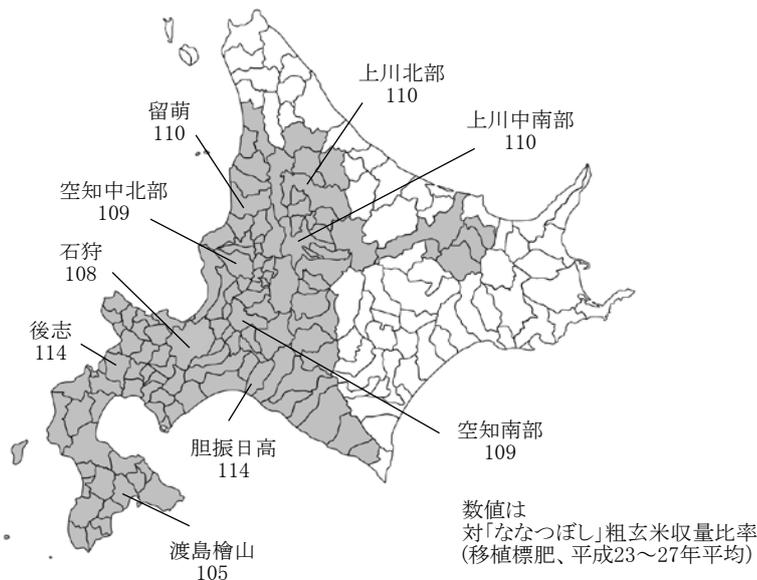
現在、北海道において飼料用米の優良品種はなく、「たちじょうぶ」等の晩生多収品種の作付けや主食用品種である「ななつぼし」等の多肥栽培による飼料用米生産が行われている。しかし、晩生多収品種は栽培適地に限られる一方、主食用品種は収量性が不十分で、耐倒伏性や耐冷性、耐病性も十分とは言えない。そのため、安定的に多収性を発揮できる、農業特性の優れた新たな飼料用米品種の育成が強く求められている。

「空育181号」は標準品種の「ななつぼし」に比べて収量性、耐倒伏性に優れ、また、穂ばらみ期耐冷性は“極強”、いもち病抵抗性は葉いもちが“強”、穂いもちが“やや強”といずれも優れている。そのため、冷害および病害のリスクが低く安定生産が可能である。出穂期は“早生の晩”で移植栽培に加えて直播栽培も可能である。

以上のことから、「空育181号」を飼料用米品種として普及させることにより、飼料用米の安定生産と所得向上が期待できる。また、北海道における主食用米の需給改善と水田面積の維持、飼料自給率向上に貢献できる。

4. 普及見込み地帯と対照品種

- 1) 栽培地帯
移植：オホーツク、上川、留萌、空知、石狩、後志、胆振、日高、渡島、檜山、各総合振興局と振興局管内
直播：上川中南部（上川町、南富良野町、占冠村を除く）、空知中北部（上砂川町、歌志内市を除く）、空知南部（岩見沢市、三笠市、美唄市、月形町）、後志、胆振西部（伊達市大滝を除く）、渡島、檜山、各総合振興局と振興局管内およびこれに準ずる地帯
- 2) 普及見込み面積 北海道 5,050ha
- 3) 対照品種 なし



図「空育181号」移植の普及見込み地帯

5. 栽培上の注意

なし

本成果は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業により得られたものである(27031C)。